



いわき平ロータリークラブ週報

創立 1953.6.18

承認 1953.6.29

<http://iwakitaira-rc.jp/>

■事務局／福島県いわき市平字白銀町 4-13 不二屋第二ビル2F

(0246) 25-3000

■例会場／いわきワシントンホテル椿山荘

(0246) 35-3000

■例会日／毎週木曜日 p.m.12:30 ~ 13:30

会長：坂本 佳友 幹事：関口 武司 発行：会報・広報委員会

第 3259 例会 (29号) 2022 年6月2日 (木) 晴

新入会員卓話 SPEECH



福島民報社いわき支社長

円谷 真路 会員

福島民報社いわき支社長の円谷です。4年前までいわき支社報道部長を務めておりまして、その際はみなさんにも取材の部分で大変御世話になりました。ありがとうございます。とはいえ、前回はロータリークラブに所属していたわけでもありませんので、私の簡単な紹介をまずさせていただきます。

須賀川市出身で、平成3年に福島民報社に入社しました。いわき支社報道部長のあと、本社の報道部長を2年間、編集局次長兼報道部長1年間を務めました。趣味は自分で言うのもなんですが、結構多彩でゴルフのほか、釣りをします。釣りは船釣りから溪流のフライフィッシング、ワカサギの穴釣りなどアユ釣り以外は何でもやります。さらに最近ではロードバイク（自転車）を始めまして、いわき市のサイクルショップで自転車を長期ローンで購入し、週に2回ぐらい内郷の自宅から小川町の小玉ダムや四倉町まで走らせて鍛えています。足腰が強くなれば、ゴルフのドライバーがもっと飛ばようになるだろう、自転車への財政負担を軽くするため、たばこをやめれば健康になるだろう、ともくろんでいますが、ドライバーの飛距離が伸びるのはいまだ実感できず、たばこをやめていない状況です。さらに趣味が多すぎて何事にも専念できないのが目の悩みです。

本業の話をしますと、東日本大震災当時、編集局のデスクを務めておりました。デスクはいわき支社など各出先、県庁回りの記者、警察回りの記者からニュースを集め、新聞を作っていく役目です。記事の価値を判断し、大きなニュース、小さなニュースに振り分け、取材の指示を出し、足りない要素などを再取材させたり、原稿を書き直させたりします。震災と原発事故報道はその地の地方紙にとって最大のテーマになりました。特に原発報道は先が長い取り組みです。福島第一、第二原発のエンドステートや放射性物質トリチウムを含む処理水の海洋放出、帰還困難区域の解消など課題が山積みですが、いわきの皆様の前で震災復興について論じるのも「釈迦に説法」でしょうか、今回の卓話のテーマをどうしようかと悩んだ末に、2年前に高知県で開かれた全国マスコミ倫理懇談会で発表した皇室と被災地をテーマにした内容を紹介したいと思っています。

テーマは「上皇夫妻が訪問を繰り返した被災地の記者から見た皇室報道とは」でした。

面白いデータがあります。今、岸田内閣の支持率は60%を超えていますが、各県の支持率を見ると、福島県はどの政権であっても内閣支持率が全国に比べ低い傾向があります。県内の衆院議員の構成を見ると自民党の支持率は高いようではありますが、内閣支持率になると伸び悩み。この傾向は沖縄県も一緒です。沖縄県の基地問題、本県の原発事故という国策に翻弄（ほんろう）された県ならではの結果なのかもしれません。内閣支持率が低い本県ですが、皇室に対する畏敬の念は非常に強いと感じています。その背景を分析してみたいと思います。

上皇夫妻は天皇・皇后両陛下、皇太子・妃殿下時代に計13回にわたり福島県を訪れています。特に東日本大震災と東京電力福島第一原発事故以降は毎年のように訪れています。

震災からわずか2カ月後の2011年5月11日には福島・相馬両市の避難所で被災者を励まされました。

2012年10月には、一部に避難指示が出ていた川内村の除染作業現場を視察されました。仮設住宅も訪れ、避難住民に対して避難区域内の自宅の場所を尋ね、気遣いを見せました。当時、放射線に対する情報はかなり、事故直後よりは綿密に発信されるようになっていましたが、現在もそうですがさまざまな説が飛び交い、住民の中には政府が示す安全基準について疑問とまではいかないまでも不安を感じている人はいたと

思います。そんな中、天皇、皇后が避難区域がある自治体に入るということはある意味、安心情報にもなっていたと思います。2013年7月には飯館村の日の中の立ち入りが可能だった居住制限区域（当時）の精密機械工場などを視察しています。2015年7月には桑折町の桃畑で生産農家を激励された。2016年3月には三春町の葛尾村役場三春出張所で村職員や避難生活を送る住民をねぎらっています。

2018年6月9日から11日にかけては、第69回全国植樹祭に出席されました。天皇・皇后としては最後のご訪問となりましたが、両陛下は震災と原発事故からの復興状況を視察されました。初日、両陛下はいわき市に宿泊し、翌日、常磐自動車道を北上しました。高速道路は開通していますが、帰還困難区域の中を突っ切るルートです。われわれは通常、なんとも思わず通行していますが、放射線などへの理解がそれほどではない人にとっては不安だと思います。重ねてになりますが、両陛下が通行することは、福島は安全だという理解が広がることに大きな意味を持っていると思います。両陛下は植樹祭でクロマツなどを植えられ、災害公営住宅で避難住民を励ました。県民は「ようこそ福島県へ、私たちは元気です」などと言った横断幕を掲げ、感謝していました。

天皇の被災地訪問についての考察があります。「昭和史」「日本のいちばん長い日」など昭和史を舞台にした数々の著書のある半藤一利氏は「天皇は被災地に見舞いに訪れて終わりという人ではない。福島のことをずっと考えておられる」と話しています。

天皇は2012年正月の談話で「多くの人命が失われ、実に痛ましいことでした。また、原発事故によってもたらされた放射能汚染のために、これまで生活していた地域から離れて暮らさなければならぬ人々の無念の気持ちも深く察せられます」と述べられました。半藤氏は「御見舞いについて皇后が先にひざをついて被災者と同じ目線で話した。天皇はネクタイもせず、ワイシャツのそでをまくって同じ目線で話すということをした。そして毎年震災について言うのはずっと福島を思っているということだ」と解説しています。

ただ、被災者に取材をしてみると、福島県民の奥ゆかしさも見えてきます。「避難所で天皇陛下から「困ったことはありませんか」と声を掛けられ、「大丈夫です」は答えていました。本当は「寒い」「床がかたい」「プライバシーがない」など思うところはあったのですが、天皇陛下に申し上げることではないと判断しているようでした。避難という困難な状況にあっても、皇室への畏敬の念を抱いているエピソードだと驚きます。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故では多くの人が故郷を追い出されました。被災者の1人は両陛下が福島への思いを述べられることに「それで悲しみが消えるわけではないが、見守られているような気持ちを感じる」と言っていました。取材を通じて県民の多くが両陛下が福島に来られることに、感謝の念を抱いているように感じます。さらに震災と原発事故から時間が経過し風化が懸念される中、皇室の被災地訪問は報道を通して世界に震災を思い起こさせ、伝え続ける存在とも言えるのではないのでしょうか。

福島と皇族の関わりについて、ちょっとした歴史がありますのご紹介いたします。もともと福島の人々が皇族に対し、畏敬の念を強く抱いていたのを裏付けるものです。

時は約150年前の戊辰戦争以前にさかのぼります。戊辰戦争6年前の1862（文久2）年、会津藩主松平容保は徳川幕府からの強い要請を受け、新設された京都守護職に就任しました。家臣の中には治安が悪化していた京都で警察のような業務に就くのを反対した人もいたそうです。家老の西郷頼母は「会津が減じる」と言って主君をいさめたといいます。しかし容保はそれを押さえて守護職を受けました。背景には会津藩には憲法とも言える「家訓」があります。会津藩祖の保科正之が残したもので第一条に徳川家に対する忠義こそ最大の法だったのです。

京都守護職についた容保は新撰組の力を借りながら京都の治安維持に成果を挙げました。そして1863年、孝明天皇と会津藩などは武力を持って尊王攘夷派の公家三条実美らを京都から追い出しました。孝明天皇は容保の働きに感謝して「御宸翰（ごしんかん）」を与えました。容保、会津藩に天皇が厚い信任を示したといえます。しかし、戊辰戦争で会津



2021~2022年度
国際ロータリーのテーマ

「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」

SERVE TO CHANGE LIVES

「出席はロータリアンの3大義務の1つです」

藩は明治天皇をかついだ新政府軍から「賊軍」の汚名を着せられます。福島民報社は新政府軍を「西軍」とし「官軍」とは書きません。それは官軍と書くことで、相対する会津藩が「賊軍」になってしまいうからです。会津藩などの幕府軍は「東軍」と表記しています。戊辰戦争後に会津藩が流された青森県むつ市や大間町の斗南藩にも会津藩が天皇を思う逸話が残っています。斗南資料館には射手座とさそり座の絵を背景に斗南藩と書かれた看板が掲示されています。さそり座を新政府軍に見立て、天皇守護のために弓を向け続けるという強固な意志を表したといわれています。こうしてさまざまな歴史を見てくると、被災地福島は特に戊辰戦争で敗れてから皇室に対する思いを強く持っているように感じます。戊辰戦争から60年が経過した1928年、孝明天皇の曾孫で昭和天皇の弟の秩父宮さまが容保の孫の勢津子さまと結婚した際に、会津の関係者は賊軍の汚名が晴れたと喜んだそうです。勢津子さまのもとの名前は「節子」。昭和天皇の母である貞明皇后の名「節子」(さだこ)との同字を避け、皇室ゆかりの伊勢と会津から一字を取ったということです。福島県民の中には、容保が幕府のため、天皇のために京都守護職を受

けたのに、その後の戊辰戦争で負けたために賊軍の汚名を着せられたという複雑な気持ちを抱く人がいます。こうした歴史の中で、天皇に特別な思いを寄せ続ける姿勢が残ったのではないのでしょうか。たびたび被災地を訪れた天皇の姿に多くの県民が勇気づけられたのは、こうした福島の歴史が関係しているのかもしれない。

震災と原発事故から11年余りが過ぎました。弊社は福島を元気にする一翼を担うという意味で「地域づくり会社」になることを社是に掲げ、県民一人一人が心の中に将来への「希望」という木を植え、育てていこうと呼び掛けています。

上皇さまは植樹祭でクロマツを植えた様子を詠んだ歌を宮内庁を通じ本県に寄せられました。そのクロマツが朝日を浴びる写真は数年前の元旦の朝刊に掲載しました。復興に向けて植えた心の中の希望の木の象徴として大きく生長してほしいというのが県民共通の願いでもあります。天皇、皇后両陛下の植えられたクロマツの生長に福島の再生を重ね、復興に向けて進む県民の姿をこれからもしっかりと追いかけていくつもりです。

司会：関口武司幹事

〔点鐘・ロータリーソング(奉仕の理想)・ロータリーの目的(阿部弘行会員)・4つのテスト(中村将之会員)〕



阿部弘行会員



中村将之会員

◆退会挨拶

6月23日で東邦銀行を退任します。多くのロータリアンと知り合えたのは大きな財産です。充実した6年間でした。

小野佐重喜 会員



◆後任挨拶

東邦銀行執行役員 いわき営業部長 吉田 哲治 さん

いわき市勤務は3回目です。ロータリークラブには喜多方勤務時代に在籍していました。よろしく願いいたします。



★誕生祝



今成 俊克さん
(6月4日)
ハッピーバースデーソング斉唱



大久保健蔵さん
(6月14日)

◆会長挨拶ならびに報告 (代理 八幡恭朗直前会長)



5月29日に勿来ロータリークラブの60周年記念式典が行われました。当クラブから、会長、幹事と阿部ガバナー補佐、私も分区幹事として出席させていただきました。スポンサークラブとして、坂本会長が祝辞を述べ、感謝状と記念品をいただきました。昨年11月に開催される予定が、コロナのために2度にわたって延期となり、やっと開催ができて、嵐繁雄会長をはじめ勿来ロータリーの皆さんもほっとしていることと思います。



いわき勿来RC60周年記念式典で祝辞を述べる坂本会長

◆幹事報告

○いわき勿来RCより6月プログラム予定表が届きました。
○ロータリーレート 1ドル127円です。



◆委員会報告・会員報告

◆出席委員会(中村将之副委員長)

例会日	基本会員数	出席者	メーキャップ数
6月2日	50名	28名	—

◆ロータリー財団委員会(鈴木東雄委員長)

有賀行秀さん、阿部弘行さん、飯野光世さん、渡邊有さん、小野佐重喜さん、八幡恭朗さん、黒須幸雄さん。以上7件

◆米山記念奨学会委員会(鈴木弘康副委員長)

大久保健蔵さん、鈴木弘康さん、有賀行秀さん、阿部弘行さん、飯野光世さん、渡邊有さん、小野佐重喜さん、八幡恭朗さん、黒須幸雄さん。以上9件

◆親睦活動委員会(小野寺順正副委員長)

6月29日にゴルフコンペを開きます。9時22分、小名浜カントリー倶楽部です。豪華賞品を用意しますのでふるってご参加ください。

◆スマイルボックス委員会(渡邊有委員長)

♥関口武司さん(円谷さん、卓話宜しく願います) ♥大久保健蔵さん(誕生祝ありがとうございます。円谷さん卓話よろしく願います) ♥今成俊克さん(誕生祝ありがとうございます) ♥小野佐重喜さん(最後のロータリーとなりました。充実した2年間ありがとうございました。後任の吉田をよろしく願います) ♥渡邊有さん(卓話宜しく願います) ♥越智正典さん(会員の皆様よろしく願います) ♥八幡恭朗さん(円谷さん卓話よろしく願います) ♥中村将之さん(卓話宜しく願います) ♥鈴木東雄さん(卓話宜しく願います) ♥佐々木貢一さん(円谷支社長、卓話よろしく願います) ♥黒須幸雄さん(関口幹事、八幡代行あと1ヶ月です。ガンバって下さい) 以上11名

★本日の例会案内 6月9日(木) 18:30 ~
夜間例会 IGM

★次回の例会案内 6月16日(木) 12:30 ~
野沢年度第1回クラブ協議会
お食事メニュー=チキンフリカッセ